

スポーツ系専門学校生のスポーツ観について ～とくに生き方・考え方、生き甲斐との比較から～

○下田 由香 (スポーツ・エデュケーション・アカデミー) 廣田 治久 (余暇問題研究所)

キーワード：生き方・考え方 生き甲斐 スポーツ観

I はじめに

昨年、スポーツ系専門学校生に対し、彼等の持つ人生観・価値観に着目し、その特徴を明らかにすることを試みた。その結果、いくつかの特徴が得られた(レジャー・レクリエーション研究第43号1996)。レジャー・レクリエーション活動やスポーツ活動は、現代社会の中で、余暇時間の増大、高齢化社会、健康問題等の複雑な状況に直面している。急速・複雑に変化する社会環境の中、若者の人生観・価値観を捉えることは非常に重要なことである。しかし、必要性が叫ばれていながらも、中学・高校などでのスポーツ・運動離れなどがささやかれていることも実情である。以上のような観点から、若者の特徴を捉えようとしたとき、より多方面からの特徴を得ることが必要であると考えた。また、レジャー・レクリエーション活動、スポーツ活動に対し、活躍の期待されるスポーツ系専門学校生への教育を考える上でも重要性の高いものと考えた。

II 目的

本研究では、前述の要因を知る一考察として、スポーツ系専門学校に通う学生を対象に

1. 「スポーツ観」の検討(スポーツに対する考え方、スポーツをすること・スポーツを見ること及び好きな理由、運動やスポーツによる心身への影響)
2. 「生き方・考え方」との比較検討
3. 「生き甲斐」との比較検討

を行い、スポーツ観の特徴を見い出すことを目的としている。

III 研究方法

1. 調査対象：スポーツ系専門学校生：174名(男子：108名、女子：66名)
2. 調査期日：1997年4月9日
3. 調査方法：質問紙による集合調査法 回収率：100%
4. 質問項目及び回答方法

質問	質問内容	回答方法
Q 1	スポーツに対する考え方	YES / NO 回答
Q 2	スポーツをすること	大好き～嫌いの5段階回答
Q 3	スポーツを見ること	大好き～嫌いの5段階回答
Q 4	運動やスポーツによる心身への影響	全くそのとおり～そうではないの5段階回答

5. 分析方法：単純集計及びクロス集計

IV 結果・考察

1. 「スポーツに対する考え方」について

ここでは、スポーツに対する考え方の回答を求めた。表1より、回答の中で高い数値を示しているのが、「スポーツは楽しむものである」、「スポーツは精神力が大いに必要となる」、「スポーツ選手は自分の考え方をはっきりもつべきだ」の順となり、「スポーツは勝つことに意義がある」は低い割合を占めている。

この結果から、スポーツは勝つことよりも楽しむことに意義があると捉えており、スポーツ観の特徴として見出すことができる。

表1 「スポーツに対する考え方」

質 問 項 目	YES
スポーツは楽しむものである	97.7%
スポーツは精神力が大いに必要となる	96.6%
スポーツ選手は自分の考え方をはっきりもつべきだ	92.0%
スポーツはすべての人たちに楽しめるものである	88.5%
スポーツは勝つことに意義がある	29.3%

2. 「スポーツをすること」・「スポーツを見ること」について

ここでは、「スポーツをすること」・「スポーツを見ること」の回答を求めた。表2より、スポーツに対しては、見ることよりもすることの方に高い数値が見られた。また、「大好き」の段階ではすることの割合が高く、よりスポーツをすることに価値観を持つことが伺える。

表2 「スポーツをすること」・「スポーツを見ること」 (%)

質 問 項 目	5	4	3	2	1
	大 好 き	好 きな方	ど ち ら と も	嫌 いな方	嫌 い
スポーツをすること	52.0	43.4	4.1	0.1	0.0
スポーツを見ること	29.5	49.1	19.7	1.2	0.6

3. 「スポーツをすること」・「スポーツを見ること」の好きな理由について

ここでは、好きな理由についての回答を求めた。表3より、すること・見ることの両者において、「楽しいから」が最も高い割合を示しているが、回答割合は、することの方が見ることの約倍の割合を示している。

表3 「スポーツをすること」・「スポーツを見ること」の好きな理由

質 問 項 目		回答率
す る こ と	楽しいから	80.5%
	気持ちが良いから	58.6%
	上達したいから	51.2%
	友人と交流できるから	43.7%
見 る こ と	楽しいから	43.1%
	わくわくするから	33.3%
	感動できるから	31.0%
	好きな選手がいるから	30.5%

4. 「運動やスポーツによる心身への影響」について

ここでは、運動やスポーツによる心身への影響をどのように感じるかについての回答を求めた。表4より、回答割合が高く見られているのは「健康増進・体力づくり」、「忍耐力」、「人との交流・協調性」となった。

表4 「心身への影響」 (％)

質問項目	全くそのとおり～そうではない					上位2段階計
	5	4	3	2	1	
体力を高める	57.5	34.5	7.5	0.6	0.0	92.0
忍耐力を身につける	42.0	44.3	12.1	1.2	0.6	86.3
健康を増進する	42.5	40.8	12.1	3.5	1.2	83.3
人と打ち解けやすくなる	38.7	36.4	19.1	5.2	0.6	75.1

5. 「スポーツ観」と「生き方・考え方」との比較検討

生き方・考え方については、同じ専門学校生に対し、人生観・価値観の調査を行った結果から、質問項目に対して肯定する割合の高いのは、「困っている人がいたら助けてあげべきだ」、「一生に何回かはデカイことに挑戦してみたい」が90%以上であり、また「人間は人生目標がないと生きていけない」(Y:51.7% N:47.1%)、「一生懸命がんばってもむくわれないことが多い」(Y:48.3% N:50.0%)、「自分のことは人に頼らず自分で解決すべきだ」(Y:53.5% N:44.8%)の3項目では、支持が二つに分かれている。

ここでは、スポーツ観と類似した質問項目を取り上げ、クロス集計を行った。(但し、段階回答は上位2段階合計とする)

- 1) 「人と打ち解けやすくなる」と「困っている人がいたら助けてあげべきだ」では、肯定的回答が91% (159人) の割合を占めた。(表5-①)
- 2) 「スポーツ選手は自分の考え方をはっきりもつべきだ」と「主張すべきことは主張すべきだ」では、肯定的回答が81% (141人) の割合を占めた。(表5-②)
- 3) 「一つのスポーツをマスターするまで頑張るべきだ」と「人間は人生目標がないと生きていけない」では、肯定的回答が35% (61人)、否定的回答が33% (57人) となった。(表5-③)

以上の結果から、生き方・考え方においては、他者との協力に肯定的な考え方を持つ傾向にあるが、人生目標、自助努力に対しては意識の低さが見られた。スポーツ観から見ても、意識(意欲)が低いことは、スポーツ系専門学校生の思考の特徴として着目する必要がある。

		生き方・考え方										
スポーツに対する考え方	① 人と打ち解ける	困る人を助ける		② 自分の考え方	主張すべきこと		③ マスターする	人生目標				
			Y		N			Y	N		Y	N
		Y	91%		3%	Y		81%	11%	Y	35%	33%
		N	6%		0%	N		7%	1%	N	17%	15%

6. スポーツ観と生き甲斐との比較検討

同じ専門学校生に対し、生き甲斐を調査した結果から、生き甲斐をより強く感じている質問項目は、「スポーツや趣味に打ち込んでいるとき」、「友人や仲間とつき合っているとき」、「親しい異性といるとき」としている。

ここではスポーツ観と類似した質問項目を取り上げクロス集計を行った。(但し、段階回答は上位2段階合計とする)

- 1) 「スポーツはすべての人たちに楽しまれるものである」と「友人や仲間と楽しんでいるとき」では、肯定的回答が78% (135人) となった。(表6-①)
- 2) 「スポーツは楽しむものである」と「スポーツや趣味に打ち込んでいるとき」では、肯定的回答が90% (156人) と高い割合を占めている。(表6-②)
- 3) 「スポーツは楽しむものである」と「勉強や自己啓発に励んでいるとき」では、勉強や自己啓発に励むことに生き甲斐を感じる (Y:37%, 64人) に対して、生き甲斐を感じない (N:61%, 106人) となった。(表6-③)

以上の結果から、生き甲斐においては、友人や仲間との交流を求める傾向が高く、更に人生の楽しさをスポーツ活動に求めることが明らかとなった。このことは、生涯スポーツに関する多くの研究からも、運動やスポーツを行う理由に「楽しみや気晴らしとして」、「友人・仲間との交流として」の回答割合が高いことが伺え、スポーツ系専門学校生においても、スポーツ活動は生活する上での大きな役割を持っていると言えよう。

それに対して、「スポーツは楽しむものである」と肯定する割合が高い中でも、勉強や自己啓発には、生き甲斐を感じにくいとする傾向がある。

表 6		生き方・考え方					
ス ポ ー ツ に 対 考 え 方 す べ て の 人 に	① 友人や仲間との交流		Y		N		
		Y	78%	11%			
		N	10%	1%			
ス ポ ー ツ に 対 考 え 方 す べ て の 人 に	② スポーツ趣味に生き甲斐		Y		N		
		Y	90%	8%			
		N	2%	0%			
ス ポ ー ツ に 対 考 え 方 す べ て の 人 に	③ 勉強や自己啓発		Y		N		
		Y	37%	61%			
		N	1%	1%			

V まとめ

以上の結果から、スポーツ系専門学校生においては、スポーツ観には非常に興味・関心を示しており、その中でもとくに、スポーツを見ること (Spectator Sports) よりもスポーツをすること (Participant Sports) の位置付けはより高く、意義のあるものと認識していることが明確となった。スポーツをすることの位置付けは、より高いことに加え、スポーツを通じた仲間との交流を楽しみに、生き甲斐を求めていることを特徴として見出すことができた。更に、スポーツに対する勝利志向の低いことから、生涯スポーツにとっても、より有意義な特徴として捉えることができよう。

スポーツを楽しみたいとしながらも、勉強や自己啓発に対しては、生き甲斐感が低いという特徴は、スポーツ系専門学校の教育現場の大きな課題であることが示唆される。